

# NEWS LETTER



岩手大学  
岩手県立大学・岩手県立大学盛岡短期大学部  
岩手県立大学宮古短期大学部  
岩手医科大学  
富士大学  
盛岡大学・盛岡大学短期大学部  
放送大学岩手学習センター  
一関工業高等専門学校

～ 岩手の復興を人材育成から、今こそ連携の力で！～

2021.Oct  
No. 26

## Index

- ご挨拶 P.1
- トピックス P.2～4
  - いわて学
  - 地場産業・企業論／企業研究
  - 地域を考える
  - グローカル基礎研修
  - 駅前講義
  - 大学進学率向上プロジェクト
  - FD・SD研修会

## ご挨拶

### 「イノベーションのためのマインドセット」

日本社会では Society 5.0の実現やDX（デジタルトランスフォーメーション）の進展が求められています。ICT化やAI（人工知能）の活用によって多くの知識や情報が共有され、今までにない新たな方法や価値が生まれ、日本が直面している閉塞感の打破、少子高齢化や地方の過疎化などの課題を克服しようとしています。しかし、日本の現状は厳しいものといわざるを得ません。昨年来のコロナ禍では、定額給付金申請にマイナンバーが機能しなかった、コロナ感染の情報は電話と手書き作業で実施、オンライン診療ができない、といった実態が明らかになりました。また、教育分野においてもコロナ禍によってGIGAスクール構想が急速に動き出しましたが、現場の教員はまだ使いこなせていないどころか、「ICTを使った教育が小中学生に本当に必要か」といった議論まで噴出しています。

岩手県をはじめとした東北地方は人口減少と東京圏への人口流出が顕著で、高齢化も急激に進んでいます。一関高专でも卒業生の多くは県外に編入学や就職し、県内に残る卒業生は僅かです。高齢化が進み、働き手が不足する地方にこそICT化やAIの導入が進められるべきですが、実際には主役となるべきデジタル人材は地方には定着していません。アジア諸国の技術力の向上と、賃金格差によって日本の産業は労働集約型から知的集約型へと変革が急速に進行しており、これにより地方においてはまち工場等の業種転換や廃業といった問題を抱えています。

ICTやAIの社会実装ではアメリカや中国に完全に周回遅れになった日本。何が原因なのでしょう。世界での高収益企業はほとんどが知的集約型の非製造業です。これら企業は小さな資本でベンチャー企業を立ち上げその後成長を果たしています。その主人公達はすべて個性派ぞろいです。イノベーションとアントレプレナー精神、日本に不足しているのはこの2つではないのでしょうか。同調圧力が大きく、出る杭は打たれる日本の文化、特に地方ではこの傾向が強いように感じます。今地方に必要なのは「ちょっと変わった考えや行動の人＝ヘンタイ」と「強いこだわりを持った人＝オタク」ではないのでしょうか。イノベーション人材とはこのようなマインドセットを持った人達だと認識するときです。まずはお互いの違いを認める文化こそがこれからの地方社会の活性化に必要なだと思いませんか。



一関工業高等専門学校  
校長 荒木 信夫

## コア科目(必修)「いわて学」

古代から昭和に至るまで岩手において製鉄は重要な産業であり、製鉄を理解せずに岩手を理解することはできない。そこで、今年度の前期「いわて学A/いわて学I」は、サブタイトルを「岩手と製鉄」と題して、かつて日本一の鉄鉱石産出地であった釜石を中心に、製鉄技術の変遷と製鉄産業が自然環境や地域社会に及ぼした影響について考える授業を企画した。受講者は、岩手県立大学21人、岩手大学15人の合計36人で、釜石市役所の協力を得て1泊2日の現地巡検も実施した。

最初に岩手県の地質概要と釜石の鉄鉱石の成因について、次に古代～近世末の製鉄技術の変遷と、製鉄産業による自然環境の荒廃について学んだ。それらの知識を踏まえて、釜石現地において近世末から近代・現代の製鉄産業の史跡・展示館を見学した。また、製鉄高炉が停止した現在そして未来の釜石を考えるためには、震災からの復興や現在取り組んでいる産業振興についても理解する必要がある。製鉄産業の盛衰、過去・現在・未来の時間を意識して、これからの釜石の産業振興を考えて授業を閉じた。

宿泊を伴う「いわて学」は、かなり久しぶりである。今回の製鉄企画は2020年度実施で計画していたが、新型コロナウイルス感染対策のため中止になり、今年度に延期した。実施したとはいえ、感染予防のためバスも宿も現地見学も、すべて大学ごとに班を分けて行動した。せっかくの宿泊なのに宿で宴会もできなかった点は残念であったが、GoToトラベル等のサービスを利用できたため、小さな費用負担で学生が宿泊できたことは幸いであった。

実施日	内容	講師
5/29 (土)	○北上山地の成り立ちと地質	盛岡一高 山岸千人
	○岩手における古代～中世の製鉄の歴史	岩手大学 八木光則
	○たたら製鉄と鉄穴流し — 中国地方を例に —	岩手県立大学 吉木岳哉
	○岩手県沿岸部における近世末のたたら製鉄	
6/5 (土)	●釜石鉱山・旧釜石鉱山事務所見学 — 昭和の釜石 —	釜石市世界遺産課 森 一欽
	●鉄の歴史館見学・鑄造体験 — 製鉄原理と産業史 —	
6/6 (日)	鵜住居地区 ●根浜海岸 — 砂浜が消えた原因と人工造浜 — ●鵜住居復興スタジアム — スポーツによる震災復興 — ●いのちをつなぐ未来館 — 津波災害記憶の継承 —	岩手県立大学 吉木岳哉 各施設の担当者
	●世界遺産・橋野鉄鉱山跡	釜石観光ガイド
	●釜石市郷土資料館 — 釜石の歴史の復習 —	釜石市世界遺産課 森 一欽
6/13 (日)	○岩手県沿岸部の人口と産業の変遷	岩手県立大学 吉木岳哉
	○釜石市における現在の産業	釜石市産業振興部 平松福壽

○：室内講義・作業 ●：屋外巡検・施設見学



宿から根浜海岸を歩いて鵜住居復興スタジアムへ



橋野鉄鉱山の高炉跡にて、ガイドさんの説明

## コア科目(選択)「地場産業・企業論/企業研究」

「地場産業・企業論/企業研究」は、県内の大学が連携して人材育成プロセスを具現化する「地域リーダー育成プログラム」のコア科目として、岩手大学および岩手県立大学が主務校となり6回目の開講となりました。

本科目は、シリコンバレーなど世界各地の有名企業で実践されている最先端の問題解決手法であるデザインシンキングを、岩手県内の地場企業における課題の発見・解決策の提案を通じて実際に体験するものです。新たなアイデアやイノベーションを生み出すためのマインドセットでもあるデザインシンキング(デザイン思考)により、人への共感を活用しながら企業や社会が抱える問題を再検討し、新しいアイデアや可能性を探っていく問題解決プロセスについて、実際に企業と関わりながら学びました。

今年度は14名の学生が履修し(岩手大学3名、岩手県立大学総合政策学部11名)、地場企業の見学や従業員との交流を通じて現場における課題を把握し、参加型・体験型の学びから、企業も気が付いていない解決策を導き出せる「取り組み」や「場」となるよう、積極的な姿勢でグループワークに臨んでいました。



グループワークの様子



グループワークの様子

## 「地域を考える」※コア科目(必修)いわて学に読み替え可能

本講義は、地域を地域史から理解し、岩手県の地域史について歴史学などの学問的視野から分析・考察し、新しい知見を加えることを目的として、本年度は9月8日(水)から10日(金)に集中講義で実施しました。受講者は30名(岩手大学生29名、盛岡大学生1名)でした。講義では「ぶら岩大」というテーマでワークショップを行い、岩手大学キャンパス内の歴史の痕跡を探すフィールドワークとグループワークを実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大のためオンライン講義になり、フィールドワークは中止しました。

最初の2日間は歴史学の基礎知識と岩手県の歴史について学び、また6グループに分かれ、「岩大キャンパス歴史ツアーコース」を創るために、これまでの学習成果をふまえてオンライン上で議論を行ってプレゼンテーション資料を作成しました。

最終日はオンライン上で6グループが発表しました。新型コロナウイルス感染予防のためフィールドワークができず、残念でしたが、受講者全員が講義とワークショップに熱心に取り組み、地域を歴史物語として捉えるという新しい視点に触れることもでき、オンライン上とはいえ、とても充実した内容の講義となりました。

プレゼン資料の抜粋▶

実施日	内容	講師
9/8 (水)	授業ガイダンス	岩手大学 脇野 博
	岩手県の地域史について調べ、考える	
	歴史学の基本知識を学ぶ	
9/9 (木)	岩大キャンパスの歴史的痕跡を探す	岩手大学 脇野 博
	ワークショップ「ぶら岩大」 岩大キャンパス歴史ツアーコースを創る	
9/10 (金)	ワークショップ「ぶら岩大」 岩大キャンパス歴史ツアーコースを創る・発表する	岩手大学 脇野 博



## コア科目(選択)「グローバル基礎研修」

本講義は平泉を広い視野から捉えることを目的としており、本年度は8月17日(火)から21日(土)に実施しました。受講者は岩手大学生30名でした。今回は新型コロナウイルス感染拡大のためオンラインでの実施になり、最終日の平泉現地見学も中止になりました。最初の4日間は基礎知識を得るため、「歴史学」「考古学」「民俗学」の観点から平泉について学び、また6グループに分かれ、平泉の魅力について、これまでの学習成果をふまえてオンライン上で議論を行ってプレゼンテーション資料を作成しました。

最終日はオンライン上で6グループが発表しました。新型コロナウイルス感染予防のため恒例の現地見学ができず、残念でしたが、受講者全員が講義とグループによる課題解決・プレゼンテーションに熱心に取り組み、オンライン上とはいえ、とても充実した内容の講義となりました。

プレゼン資料の表紙▶



【お知らせ】9月に開講を予定しておりました前期集中講義「ボランティアとリーダーシップ」は、新型コロナウイルス感染症の影響により延期を決定しました。

### 今後のコア科目講義予定

- |                           |                         |
|---------------------------|-------------------------|
| ● 前期集中講義 「ボランティアとリーダーシップ」 | 開講期間：12月4日(土)～12月12日(日) |
| ● 後期集中講義 「危機管理と復興」        | 開講期間：10月9日(土)～11月13日(土) |
| ● 後期集中講義 「いわて学」           | 開講期間：11月6日(土)～11月27日(土) |

## 大学での学びをちょっとのぞいてみませんか？ 単位互換・高大連携 ～駅前講義～

8月6日(金)、岩手県立大学アイーナキャンパス(盛岡市)において、県内高校生の進学意識の向上を目的として「駅前講義」を開催しました。

今年度の講義では、岩手県立大学猪股俊光教授から「大学での学びについて」と題して、大学で学ぶ意義等について、これからの未来社会 Society5.0 の話題やいわて高等教育コンソーシアム単位互換制度の紹介を交えてお話をしました。これまでで最も多い県内の高校生・保護者等68名が参加し、「改めて進

路について考えることができた」「進路の悩みを解消できた」等の感想が寄せられました。

また、講義の終了後、大学生による体験談発表を行ったところ、参加者から「学生の生の声を聞いた」と好評でした。

展示会場では、大学進学PRや県内各大学の紹介を行い、参加者は各大学の案内や学生生活の展示を熱心に見学していました。



猪股教授による講義



展示会場の様子



大学生による発表

## 単位互換・高大連携 大学進学率向上プロジェクト

単位互換・高大連携推進事業「大学進学率向上に向けた取り組み」では、岩手県内の高校で、これまで大学進学を考えていなかった生徒・保護者に、大学に関する最新情報(入学、学業、大学生活、卒業後の進路等)を提供し、大学進学を考えてもらう機会を作り、それを契機に、県内のみならず全国の大学への進学を実現し、大学進学率の向上に繋げるという活動を様々な形で進めています。

6月11日(金)、九戸郡洋野町の「岩手県立大野高等学校」にお邪魔し、「大学進学のスズメ ドラゴン桜は誰が植えるのか」と題した進路講演会を実施しました。講演会には、大学進学を模索している1年生9名、2年生3名、3年生3名の生徒と保護者が参加しました。

講演者(岩大)から、高校と大学の違いや、大学の特色、授業料・奨学金の情報とともに、現役大学生の親としての経験や、自身の大学進学時、入学後の大学生活の経験を踏まえた大学進学へのメリットや魅力に加え、勉強方法や受験に向けての日々の生活方法等、進学に向けての心構えについての話がありました。

生徒は講演中熱心にメモを取り、また後日「将来の進路が大幅に広がることを知ることができた」、「失敗例、成功例を聞いて、自分もいろいろな方法を試してみようと思った」等の感想や御礼が寄せられました。

今回参加した生徒が真剣に大学進学を考える良い機会になったのではないかと考えています。



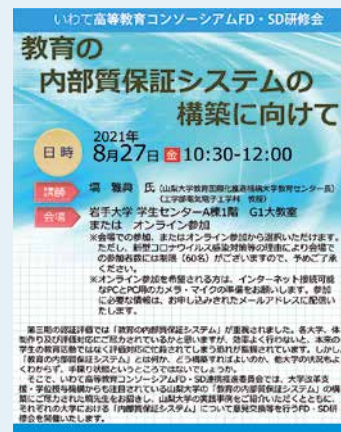
進路講演会の様子

## FD・SD研修会

いわて高等教育コンソーシアムFD・SD連携推進委員会は、当委員会主催のFD・SDの開催、連携大学で実施するFD・SD研修会の相互参加の推進等を目的に活動しております。新型コロナウイルスの感染が拡大する中、令和3年度も昨年度に引き続きオンラインにてFD・SD研修会を開催いたしましたので、ご報告いたします。

去る8月27日(金)に、『教育の内部質保証システムの構築に向けて』と題しまして、山梨大学教育国際化推進機構大学教育センター長の埴雅典氏を講師にお招きし、FD・SD研修会を開催いたしました。講演では、大学改革支援・学位授与機構からも注目されている山梨大学の内部質保証システムをご紹介いただきました。多くの関係者の方にご参加いただき、関連大学相互の情報交換や質疑応答も行われ、盛会のうちに終了しました。ご承知の通り、第三期の認証評価では「教育の内部質保証システム」が重視されております。今回のFD・SD研修会が各大学の質保証システム構築の一助となれば幸いです。

当委員会では、昨今の大学を取り巻く環境の変化等に対応できるよう、今後も大学で働く教職員の皆様には有益な研修会等を企画してまいりますので、多くの皆様方のご参加をお待ちしております。



FD・SD研修会ポスター

発行連絡先

いわて高等教育コンソーシアム事務局 (岩手大学法人運営部総務広報課内)

〒020-8550 岩手県盛岡市上田三丁目18-8

TEL.019-621-6855 FAX.019-621-6014

[E-mail] [ihatov5@iwate-u.ac.jp](mailto:ihatov5@iwate-u.ac.jp) [URL] <http://www.ihatov-u.jp/>